

---

## クラブ

---

下記に記すガイドラインは、さまざまなサービスの分野で活動するAAメンバーの経験からまとめられたものである。ここにはまた、「12の伝統」とAA評議会（アメリカ・カナダ）とによる指針が反映されている。

---

AAの始まりの頃から、AAの第一の目的——まだ苦しんでいるアルコールクにメッセージを運ぶこと——を遂行する原動力となっているのが“グループ”である。AAメンバーが回復をし、一体性の中で共に生きることを学び、サービスを通して霊的に成長を遂げていくのも“グループ”の中である。したがって、世界中のAAメンバーが熱心に（そして時には、警戒心を持ってさえも）グループを守っているのは、それがわれわれが今日生きていく上でのまさに核心を成す部分であり、われわれ全体の“福利”を常に意識しながら共に生き共に活動していく場所だからである。

AAグループとはAAメンバーだけでなく、AAメンバー以外の私たちの友人たちにとってもAAである。したがって、必要に応じて出現するサービス実体も、AAグループに良い影響があるような方法で運営されるべきであり、その結果、メッセージも引き続いて運ばれていき、各AAメンバーもグループの活動の中から生じてくるサービスを行うチャンスを得ていくのである。

### クラブの誕生

過去40年の間、クラブを持つという考え方はAAの経験の一部となっている。それは当然のことだが、永遠にミーティング場として確保できる場所（例えば、誰かの家とか）が欲しいと思ったことのあるグループは数多いだろうし、新しいメンバーがやってきた時一緒にコーヒーを飲んで話ができる場所とか、メンバーがみんなでお昼を食べにいける場所とか、週末や休日にみんなが集れる場所があったらと考えたことがあるAAメンバーは数多くいるからである。AAメンバーの中には、新しい生き方の中でグループ・ミーティング以外の場所でもフェロシップを持ちたいと願っている人たちもいるように思える。つまりAAの中でも広い付き合いを求めている。このような次第でクラブを持つという考えが生まれた。

しかし、クラブを必要と考えていないAAメンバーも常に存在している。AAにはグループがあれば十分と思っている。このように、クラブはそれを望む人たちのために作られているもので、その企画はすべてその線に沿って作られるべきものである——クラブのメンバーはAAグループも参加してくれるよう常に呼びかけながら。

1947年、ビルWは『AAの伝統が生まれるまで』というパンフの一部にもなったクラブについての記事をグレープバインに書いている。そのタイトルは「AAの中のクラブ—AA

はクラブと共存できるか」という問題を提議したものである。今日では、その答えはまぎれもなくイエスであろう。クラブを持つという考えが持続し成功を収めたのは、ビルの記事で述べられたガイダンスと知恵に、そして、クラブ指向のAAメンバーがクラブに加わり、クラブを活性化させることに一役買ってくれたという意欲によるところが多い。AAの回復の基盤となっている「AAグループ」の真価を減じることなく、効果的にクラブが機能できてきたのは、このようなAAメンバーのおかげである。彼らの経験によりクラブは地元のAAとともに調和をもって存続し、クラブがあって助かったという人たちにとって非常に役立つAAの目的を満足させていることが分かる。

そこで次の問題は「今クラブを始めることに関心を持っている人にとって、その地域のAAにも資産となり、利用者が楽しく集えるようなクラブをどのように作るか」となる。

### 経験の中から

クラブが設立された経験から出た提案を、ここにいくつか挙げた。

- (1) AAクラブというものは存在しないことは誰もが知っているが、それでもAAをクラブと考えている人——特に地元のAA以外の人たち——は、たくさんいる。そこで、まずAAの12の伝統をよく把握するよう提案されている。

そしてこれらの伝統に沿ってクラブの諸事を動かしていく。

クラブは“Arid”とか“Ansa”とか“Anchor”とか、AAと関わりのない名前をつけられており、メンバーはAAの伝統を慎重にあくまで守り続け、AAメンバー以外からはいかなる資金も受け取っていない。一般の人たちが関わってくる募金活動一切も、当然 行っていない。会費や献金でクラブは運営されており、それに、クラブ内でミーティングを開いているAAグループが支払う使用料がプラスされる。

AA以外の善意にあふれた福祉の心がある人から提供される建築材料や家具、台所用品や生活必需品を受け取りたい誘惑にかられることがたびたびある。そこで、クラブに居る誰もが自立の伝統の重要性を認識すべきなのである。われわれが完璧に自立し、財政的に健全なこの地点にまで成長できたその伝統のことを。あらゆる財務の責任を自分たちだけで負うのは必ずしも簡単なことではないが、充足感には替えられない。

- (2) あなたのクラブの目的の意味を明確にし、必要にかなうスペースを探す。その運営の必要経費を決め、運営開始、賃貸料、設備、管理、その他分かっている経費を賄える予算を算定する。
- (3) 関心を持つAAメンバーをすべて招集した会合を、AAのグループ・ミーティングとは別に開く。集った人たちに対して、あなたが企画を立てたプランや財政面でのニーズを伝え、最初から会費を支払ってくれることを当てにできるメンバーが何人いるか確認する。また、地元のグループに対し、クラブをAAミーティングの会場として借りる意向があるかも聞いておく。その意向がある場合、いくらぐらいの賃貸料なら適当かどうか聞く。

クラブの創立委員は、クラブ開始にあたって最初は多少多めにカンパしてくれる場合が多い。1人か2人の裕福なAAメンバーに金銭的な負担を願うより、全員に参加を呼びかけた方が良くだろう。希望している人には全員に呼びかけて参加してもらおう。その方がずっと楽しい。毎月の会費はだいたい3ドルから10ドルぐらいのようだが、それもクラブの種類やニーズによる。

#### どのような責任者を？

- (4) ここで、関心をもって出席しているメンバーにもう2つの質問を考えてもらおう。つまり、誰にクラブの責任者になってもらうか？責任者の条件を、どう定めるべきか？責任者はクラブの事務処理も扱わなければならない。賃貸契約を管理し、所有物を維持するための支払いもすべて行う。そこで責任者には大体の目安として3年のソブラエティを求めている。そしてクラブの責任者は、クラブ内で行われるAAグループ・ミーティングでは何の役割につくべきでないという提案に従っている。
- (5) その集りで、クラブのメンバーになれる条件も決定していいだろう。大方のクラブでは、クラブに関心を持つAAメンバーなら誰でもメンバーになれる、としている。ソブラエティ30日としているクラブが多いが、90日としているところもある。新しいAAメンバーの場合、クラブのメンバーになれる資格ができるまでは、ゲストとしてクラブを利用できるようになっている。会費を収めているメンバーは全員が役員になる資格があり、クラブ運営会議では投票権を持つ、というのが一般的である。
- (6) さて、すべてが計画通りに進み、財政面でも関心を持ってくれるAAメンバー数が十分となったら、そこで弁護士に相談し、クラブを非営利事業として地元の法律にのっとって法人化させる段階である。通常、弁護士のAAメンバーがいて、このような件をアドバイスしてくれている。問題を複雑にしたり、費用をかけ過ぎるべきではない。法人化は「伝統6」に沿うもので、つまりそれは「金銭や所有権や名声の問題」がAAを第一の目的からそれさせないよう、AAメンバーが使用する資産は分離して法人化し管理されるべきことを示している。これは勿論だが、そのように法人化されたクラブの名称にAAを入れるべきでない。

銀行の借り入れが必要な場合、その法人の責任者がそのローンを保持すべきで、支払いはクラブの基金から払っていくものとする。まだAAメンバーになっていない将来のメンバーにまで金銭の負担や責務を負わせるのは警告を要すると提案されている。まず小規模でスタートさせ、その後成長し、財政的にも確実になった時点で拡張した方がよいだろう。

#### 運営上の決定

- (7) クラブの法人化がすんだら、クラブ運営の詳細を決定する会合を持つことになるだろう。その後に、会費を払ってくれるメンバーに全体プランやクラブの規則などを承認してもらう会合が開かれる。規則や内規はすべて、経験が集積されるにつれ補正されていくことは勿論である。

- (8) ギャンブルについて  
ギャンブル全面禁止についてはかなり考慮を要するべきことである。ギャンブルが原因のトラブルが、既存のクラブで何年にもわたり頻繁に生じてきた。その結果、AAのイメージを損なうほどの悪評が地元に行き渡ってしまった場合もある。この種のものはAAの第一の目的を損ない、クラブの悪評が立つことにもなるからである。
- (9) トランプ、ビリヤード、卓球、テレビ鑑賞は、クラブのメンバーの多くが楽しんでいる活動です。楽しみということで、お金が（賭けごとなどとして）絡んでいなければですが。
- (10) 経験によると、インターグループ（セントラル）オフィスや電話サービス、セントラルサービス委員会は、クラブとはまったく分離すべきことが立証されている。——物理的にも分離しているのと同時に、経営に関するものは全て分離—— まだできたばかりのインターグループ（セントラル）オフィスの場合、クラブの建物を使ったらどうかと勧められることがある。そのような時、AAメンバーは伝統9をしっかりと見つめるべきであり、サービスオフィスというものは全AAグループおよび全AAメンバーに対して責任を持つものだが、クラブの場合、主に会費を支払うメンバーに対しての責任しかないことを思い出すべきである。親切な申し出でも、サービスオフィスはサービスオフィス独自の場所と役員を置くよう忠告されている。
- (11) Al-Anon がクラブをミーティング場を使用したい場合、AAグループがミーティングにクラブを使うのと同様に、使用料を請求するように提案されている。

#### クラブで行われるAAグループミーティングについて

- (12) AAグループ：  
各グループが自立性を維持し、ミーティングを開いているクラブとは全く別のものであるという独自性を保つ大切さは、いくら強調しても、し過ぎることはない。グループの責任とは、苦しんでいるアルコールクに対し、そしてフェロウシップ全体に対して負うものであり、クラブに対して負うものではない。
- この第一の目的を遂行する為には：
- A) グループはクラブと違う名前にする。
  - B) グループは自分たちの献金だけで自立するものである。  
それには資金を別に確保して建物の正当な使用料を支払い、“6-3-1 プラン”に基づき、地元のセントラル（インターグループ）オフィス（ある場合）：G S O：地域のサービス委員会へと直接独自に献金をする。
  - C) グループはクラブのメンバーであるなしにかかわらず、アルコールクには誰にでも開放されているものである。グループのメンバーになるための唯一の条件は、酒をやめたいという願望だけだからである。
  - D) 言い換えれば、たとえAAメンバーだけで構成されているクラブの中でグループがミーティングをしていたとしても、そしてグループの多くのメンバーがクラブ員であっても、クラブとAAグループの関連は、ミーティングに会場を借りている教会や病院、学校などに対するのと全く同様にすべきである。

## 評議会勧告

1967年のゼネラルサービス評議会にてこの問題に対する討議が行われ、AAメンバー向けにクラブについての意見表明がなされた。それには、

「クラブについての討議で認識されたことは、『AAクラブ』というものは存在しないにもかかわらず、クラブはAAメンバーによって組織され動かされており、クラブのメンバーになる資格はAAメンバーだけに限られているため、多くのクラブがAAと同一視されていることである。ミーティングが開かれ、社交の目的とともに12番目のステップのために維持されているクラブの場合、AAの伝統を忠実に守ることでトラブルを回避できる。けれども、クラブはAAの名前を使用すべきではなく、AAとはまったく分離して組織されるべきである。クラブは外部からの金を受け取るべきでなく、会費とAAメンバーからの個人献金で支えられるものである。AAの中でメンバーになるためにお金を払うことの問題は生じることはない。クラブで開かれるAAミーティングの場合、誰にでも出席できるからである。クラブもAAの伝統の範囲内で運営されるべきで、伝統を精一杯固守すべき事実の認識を評議会は表明した」

1972年の評議会によってさらに、「GSOはクラブから献金を受けるべきでない」と言うガイダンスがGSOに対して出された。

この決定は、全クラブに送った質問状の回答に基づいて出されたものである。その回答が示すところでは、クラブ運営の手順における違いは余りにも大きくて、例えば、あるクラブから受け取った献金がAAメンバーだけから出されたものかGSOではとても判断できないという理由による。

(もちろん、前記(12)-Bでも暗に示されているが、クラブの建物でミーティングを開いているAAグループからGSOは献金を受け取っていない。)

1981年に、評議会は『クラブはAA出版物のディスカントは受けられない』旨を勧告している。AAグループとセントラル/インターグループ・オフィスだけにディスカントの権利を確保することで、評議会は再度、分離した組織としてのクラブの地位を確認した。つまりそれにより、最もうまく機能できる方法だということ。

\* \* \* \* \*

クラブを始めたいと思っている人や、古くからあるクラブの再活性化に関心を持っている人すべてに幸運が訪れるように。このような経験の分かち合いが少しでも役に立つことを祈っている。すばらしいスタートを切ったクラブは、非常にうまくいくものであるし、また好ましくないスタートを切ったものは、AAの第一の目的に逆の影響を与える場合があることを忘れないように。